

吸入療法エキスパートを受験しての感想

日増しに寒くなってきて秋も終わりの頃になりました。

今回のコラムでは日本喘息学会が今年度から新しく設立した吸入療法エキスパートについて資格説明と実際に受けてみた所感を記載してみたいと思います。

吸入療法エキスパートは吸入指導に関する正しい知識・技能を習得し、全国均てん化を目指すために資格として制定されました。

資格を受ける為には、①日本喘息学会の会員である事 ②喘息治療に従事している医療関係者である事（医師、薬剤師、看護師等）③日本喘息学会学術大会もしくは気道アレルギーセミナーに参加している事。

以上3つを満たしていれば受験をすることが可能です。

今年度は7/13、7/14に日本喘息学会学術大会が開催され、6/14～9/16までが受験申請期間でした。私はこの学術大会に参加してから7/15に申請を行いましたので、今年度の学術大会に参加出来ていなくても2025年度の学会に参加すれば受験資格は得られると思います。**2025年度の学術大会は8/9～10を予定**していますので興味ある方は予定を開けておくのをお勧めします。

実際の試験ですが、今年度は10/13に大阪にあるオービックホールで開催されました。試験は1人20分の実技試験、60分のマークシート形式の試験でどちらも正答率6割以上を満たした場合に

合格となります。

まず実技試験ですが、日本喘息学会が作成した吸入操作ビデオ、「吸入療法エキスパートのためのガイドブック 2023」に沿った内容で実施されます。試験では直前にくじを引き、そのくじで引いたデバイスの説明を行います。その中にはスプレー付きのデバイスを引くこともあるためスプレーについても手技を学んでおく必要があります。基本の手技は吸入連携会で配布している吸入手技評価表を把握していればよかったのですが、この評価表に記載していない事柄も説明が必要です。

例えば**ホー吸入**。こちらは舌を下げて気道の空気の通り道を広くするための吸入法ですが、喘息学会ではこのホー吸入を推奨しているため必ずこの吸入法の説明を加えることが必要です。私自身がなかなかホー吸入が上手く出来なくて説明するのが少し難しかったです。もう少し自身でもスムーズに出来るように練習しておけばよかったと感じました。また喘息学会の資料ではデバイスの細かい部分の名称も指導しなければいけません。例えばスプレーならフローインジケーターや吸入口、スローホイッスルなどです。普段高齢の方などに指導しているとあまり意識して伝えない名称なので、この部位の正式名称はなんだったか改めて覚え直す必要があると感じました。 普段から吸入指導をしている薬剤師でも試験を受ける前には必ず喘息学会の手技資料に目を通しておいた方がよいです。

一方でマークシート形式の筆記試験ですが受験申請を終えるとメールで送信される試験用テキストから 40 問が出題されます。このテキストは基本的に「吸入療法エキスパートのためのガイドブック 2023」の内容ほぼ同一でした。こちらは普段から吸入連携会で講義に参加したり、吸入について学んでいればそこまで難しい事はなかったと思います。普段あまり触れないネブライザーや医薬連

携の加算、加算のために必要な条件など、テキストを読みながら覚えきれていない内容を一通り覚えるようにしていきました。テキストをしっかりと読み込んでいないと迷うような問題も少しありましたのでテキストも最低限は読み込んでおくのをお勧めします。

今回吸入療法エキスパートの試験を受けて、改めて細かい部分を覚え直すいい機会になったと思います。吸入療法エキスパートは5年ごとの更新が必要です。5年で喘息学会に2回以上参加が必要のため、学会に参加することでも新しい知見が得られるチャンスだと思います。エキスパート試験は今回は初年度で来年以降変わっていく部分もあると思いますが普段から吸入指導に携わっている薬剤師なら取ってみて損はない資格なのではと思います。

難点としてあげるとすれば、資格を取ったことによる優位性などは出来たばかりの資格のため特にはありません。そして関西中心に開催している学会のため、学術大会も試験開催も全て大阪で行われていました。もう少し資格として広まってきたら、是非関東や他の地域でも開催されるといいなと思います。

(文 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 薬剤部 柳田絢子)

◆日本喘息学会

<https://jasweb.or.jp/>

◆吸入療法エキスパート

<https://jasweb.or.jp/exp/index.html>